

## スウェーデンの大規模評価に反映された歴史意識と歴史的思考

### Historical consciousness and historical thinking reflected in Large-scale assessment in Sweden

担当：川口広美（広島大学大学院人間社会科学研究所）

hkawaguchi@hiroshima-u.ac.jp

#### ■著者情報

名前：Per Eliasson

・略歴：Malmö University の Faculty of Education and Society (LS)の教授（現在は Time employee）2009-2010 年にはスウェーデンの義務教育段階の歴史カリキュラムのコーディネーターとして勤務。第9 学年歴史のナショナル・テスト作成のリーダーであった。

・研究テーマ：環境史（environmental history）と歴史教授学

・有名な論文や書籍：

Lindbladh, M., Brunet, J., Hannon, G., Niklasson, M., Eliasson, P., Eriksson, G., & Ekstrand, A. (2007). Forest history as a basis for ecosystem restoration—a multidisciplinary case study in a South Swedish temperate landscape. *Restoration Ecology*, 15(2), 284-295.

名前：Fredrik Alvé

・略歴：Malmö University の Faculty of Education and Society (LS)の senior lecturer (執筆当時は PhD 学生)。スウェーデンの第9 学年ナショナル・テストの執筆者を務める。

・研究テーマ：歴史教育の目的を政治家・教師・生徒がどのように受け止めているか、歴史における評価スキルと目的論との関係性

・有名な論文や書籍：

Alvé, F. L. (2019). Bias in teachers' assessments of students' historical narratives. *History Education Research Journal*, 16(2), 306-321.

名前：Cecilia Axelsson Yngvé

・略歴：Malmö University の Faculty of Education and Society (LS)の senior lecturer (執筆当時は assistant professor)。スウェーデンの教育局において後期中等学校向けの歴史評価の教材を執筆、ニューカマーの子どもたちの歴史知識の評価のプロジェクトのチームリーダーを務める。

名前：David Rosenlund

・略歴：Malmö University の Faculty of Education and Society (LS)の senior lecturer (執筆当時は PhD の学生) スウェーデンの第9 学年ナショナル・テストの執筆者を務める。

・Rosenlund, D. (2016). *History education as content, methods or orientation?: a study of curriculum prescriptions, teacher-made tasks and student strategies* (Doctoral dissertation, Peter Lang Publishing Group).

## ■ひとこと概要

本章は、スウェーデンで2013年に新しく導入された第9学年を対象とした全国テストを対象としている。スウェーデンの歴史教育は、第1学年から第9学年を通し、歴史意識の成長を主目的としており、ナショナル・テストでは、この歴史意識の発達をどのように大規模評価で図るかということが課された。章の中では、タスクの構成の仕方、具体例、評価が説明されている。執筆者たちは、複雑な歴史意識を評価するために、歴史的思考のプロセスとして適用することが効果的であると指摘した。

## ■ まとめ

### 1. スウェーデンの歴史カリキュラムとナショナル・テスト

(1) 2011年に新ナショナル・カリキュラム、2013年にナショナル・テストに地理・歴史・宗教・公民が追加されるようになる。(本章では主に第9学年のナショナル・テストに焦点を当てる)

(2) スウェーデンの歴史カリキュラム

- ・1～9年：歴史意識の発達で貫かれる
- ・カリキュラムにおける歴史意識をめぐる3つのコンピテンシー：①歴史的な参照枠を利用できるか ②歴史知識を構成するための基礎史料の批判的検討、③自己／他者の歴史利用を省察することができる＋歴史概念を用いて歴史的知識の組織・作用・使用を分析することも含まれる(この背景には、Rusenの3つのコンピテンシーが適用)

表 11-1：カリキュラムのコンピテンシーとナラティブ・コンピテンスとしての歴史意識に関連した概念の対応表

	関連した概念とコンピテンシー		
	経験 (experience)	解釈 (interpretation)	志向 (orientation)
カリキュラムのコンピテンシー	・歴史的参照枠を利用できる	・歴史を作るために史料を利用できる	歴史の利用について省察できる
概念	原因と結果、継続性と変化	史料、解釈	類似と相違、アイデンティティ

- ・カリキュラムは年代史的に編成。7～9年で古代～現代を含む(これは試験の内容にも還元)
- ・F(不合格)、E(合格)、C、A(高い評価)として評価

### 2. 課題の構成の仕方

- ・多肢選択ではなく、構成された応答 (constructed response, CR) の課題が使用。
- ・作成過程：①カリキュラムの理論的分析、各知識要件を満たすための認知プロセスの定義、②タスクを開発し、パイロット、③思考を正しい方向に導くための足場掛けを用意
- ・CR課題に応じたルーブリックを作成(評価を行うため)
- ・難易度は、サンプル課題  $2 < 1 < 3$

(1) サンプル課題：スウェーデンの民主的発展（歴史的参照枠を利用できるコンピテンシー評価）

- ・ **用いる概念**：因果関係（原因と結果）、継続性と変化
- ・ **トピック**：「スウェーデンの民主的発展」
- ・ **ツール**：3枚の写真（グスタフ3世、1918年の男性・白人のみの政府、2010年のよりミックスの政府）を見せる。
- ・ **課題**：継続性と変化及び、なぜそうなったのかの要因について説明すること

→2つの概念を一気に聞くことの意味（時間の節約、歴史の主題の断片化を防ぐ）

- ・ **評価**：  
レベルE：基本的で機能的な方法で概念を適用する（例）「民主主義の変化として、権力者は王ではなく、政治家であることである」  
レベルA：継続性と変化の要因と、複数の例を挙げて答えを説明できる（例）スウェーデンの政治における家父長制構造の継続と変化とを組み合わせる回答する

(2) サンプル課題：オロフ・パルメのスピーチ（歴史の利用を省察するためのコンピテンシー評価）

- ・ **トピック**：「オロフ・パルメのスピーチ」
- ・ **ツール**：1972年のオロフ・パルメのクリスマスに行ったスピーチ。
- ・ **課題**：なぜ、パルメはベトナム戦争におけるアメリカのハノイ攻撃について言及する際に、ゲルニカ、トレブリンカ、シャープビル（ナチスによる）について言及したのかを説明する
- ・ **評価**：  
レベルE：歴史的な例を選んだ理由を1つ挙げる（例）アメリカがナチスよりも優れているわけではないことを説明  
レベルA：歴史的な例が与えられた文脈で効果的である理由（例）出来事が知られており、聞き手が感情的なつながりを感じるから

(3) サンプル課題：我々は未来に向けて何を言えるのか？（歴史的参照枠組みを利用できるコンピテンシー評価）

- ・ 時間的志向について尋ねている
- ・ **トピック**：歴史家としてニュース番組に登場する。
- ・ **課題**：「より失業率が高まれば、スウェーデンからの移民は増加していくだろうか？」
- ・ **ツール**：1880年代の写真（スウェーデンからアメリカへの移住）、1930年代の写真（スウェーデンでの失業者によるパンの行列）
- ・ **評価**：①絵に描かれているプロセスに関する内容知識 ②どの部分が回答に必要なかを選択する  
レベルE：19世紀の例を出したうえで、移民率は変わらないだろうと説明  
レベルA：より国際的な文脈に即して説明するようにした

### 3. 評価の採点方法

- ・学校の教師が採点を実施。そのため、評価の指示が示された小冊子が提供されている。
- ・タスクの構成と具体的な採点指示には、知識要件、国家カリキュラムとの対応表が重要。
- ・評価を行うために必要な2つのステップ：

第1段階：知識要件に応じて、推論の中で何を評価すべきかを決定すること（例）サンプルタスク3：トレンドについて言及し、過去と現在を参照する

第2段階：パイロットの際の学生の回答を示すこと：これにより有能なパフォーマンスとそうでないパフォーマンスの識別がより容易になる

→本文のタスク3のルーブリック（p.179）

#### Eレベルの生徒

- 単純ながらもある程度の知的なリファレンスを用いて、生徒は未来の移民についての合理的な推論の記述を行う。
- 生徒は、未来の移民の程度を説明するために、歴史的な例と現在の例のいずれかを参照します。

#### Cレベルの生徒

- 先進的で比較的知識量の多いリファレンスを用いて、生徒は未来の移民に関する合理的な推論を2つ記述する。
- 生徒は、歴史的な例と現在の例の両方を踏まえて、未来の移民の程度を説明する。

#### Aレベルの生徒

- よく練られた、より知識量のあるリファレンスを用いて、生徒は未来の移民に関する合理的な推論を2つ記述する。
- 生徒は、歴史的な例と現在の例の両方を踏まえて、未来の移民の程度を説明する。
- 歴史的事例が歴史的な文脈に埋め込まれている。

### 4. テストの結果

- ・歴史的参照枠組みを用いる課題の結果が悪く、歴史的資料の取り扱いに関する課題の結果はよかった
- ・資料を用いるものは、一般的な論理的スキルを用いることが多いことに起因するかもしれない。（その場合は、より歴史的知識が必要な課題に修正する必要がある）
- ・女子が男子よりも結果が良い
- ・スウェーデン語を第1言語とする生徒の方が第2言語の生徒よりも結果が良い

### 5. 結論

- ・全国テストは賛否両論があった。しかし、肯定的な評価も多かった。
- ・外部テストが教師の指導・評価・同僚との話し合いに肯定的な影響を与えたと評価。
- ・成績の一貫性を高めることにもつながった（ただし、それには明確な採点基準と指示が必要）
- ・歴史的思考のアプローチによって、歴史意識を評価することが可能になったことが明らかになった。